

村内で見られる身近な野鳥

沖縄では秋から翌年の春にかけて、秋に渡来して越冬し、春季に去っていく冬鳥や渡りの途中に羽を休める旅鳥を観察するのに絶好の機会です。恩納村にも数多くの野鳥が訪れており、観察できますので、その一部を紹介します。

アオアシシギ【シギ科】 全長:35cm 撮影地:仲泊

足が長く緑青色がかかるのが特徴のシギ。くちばしは長くやや上にそり、黒っぽい色をしており、お腹は白色をしています。

沖縄県内では旅鳥として秋頃に飛来し、越冬する個体も多いため、干潟や海岸、水田、河川などで普通に見られます。



オナガガモ【カモ科】 全長:雄75cm、雌53cm 撮影地:安富祖水田

冬に水田や河川、湖沼などに普通に飛来するカモ。首と尾が長く、雄は黒褐色の顔で首の全面と横が白く、体は灰色をしています。一方、雌は全身褐色で黒褐色のまだら模様をしています。くちばしは雄雌ともに黒っぽい。雄では青色がかかった灰色をしているのも特徴です。



サシバ【タカ科】 全長:49cm 撮影地:安富祖水田

カラスより少し小さく、一般にはなじみの深いタカ類です。県内では秋頃に大群で渡ってきて、東南アジア地域に向かっていきます。春秋の渡りのほか、沖縄で越冬する個体も多く、各地の森林や周辺の草地で普通に見られます。



参考文献:沖縄野鳥研究会 2010『改訂版 沖縄の野鳥』

脱穀と精米を体験

1月12日から当館で開催した企画展「恩納村の稲作」の関連イベントとして、1月22日に博物館講座「脱穀と精米体験」を開催しました。当日は、安富祖で稲作をしている方から提供していただいた稲を1960年代頃まで村内で使われていた足踏み式脱穀機で脱穀し、その後、すり鉢を使っての粉すりとビンと突き棒を使った精米を体験しました。

足踏み式脱穀機は効率的に脱穀できるため、爽快感がある一方、粉すりや精米は地道な作業でしたが、普段体験できない作業に参加者の皆さんも懸命に取り組んでいました。

博物館では今後もこうした体験講座の開催を継続していきたいと思っています。

